

日本農業教育学会 『栽培・飼育教材開発コンクール』

2019年度(第1回) 募集要項

主催 日本農業教育学会

【趣旨】

農業は、作物・家畜を含めた自然に働きかけて、食料やエネルギー源をはじめとする人々の生きる糧を供給する人間にとってもっとも基本的な営みです。また、国土保全等を含む様々な多面的な機能も有しています。それを学ぶ農業教育の意義はたいへん大きなものがあります。その中で、幼児教育や小学校生活科では、子どもたちの成長・人格形成の基本にかかわる重要な意義があります。さらに、小学校の社会・理科、中学校技術での生物育成における栽培・飼育教育・農業教育は、農業の意義、植物栽培・動物飼育に関する基礎的知識理解と農業技術の基礎を学ぶ意義があります。さらに、農業高校も含めて考えれば、日本・世界の農業の将来を担う人材の育成としての意義があります。

このようなきわめて多面的で重要な農業教育における栽培・飼育に関する有効な教材の開発は学会としての役割であり、有効な教材をコンテストという形で評価し、共有しあい普遍化することで、教材の発展、ひいては農業教育の発展と日本・世界の農業の未来の形成につながるものと確信します。こうした意義を期待し、ここに『栽培・飼育教材開発コンクール』を実施するものです。

多数の応募をお待ちしています。

【対象者】

幼児教育・保育施設、小学校、中学校、高校、特別支援学校の教員

【応募方法】

教材に関する説明をわかりやすく記載した原稿とし、実践方法と成果についての内容を含むものとする(字数 3000 字以内・Word 形式)。

教材の写真や図があれば原稿内に掲載、他に、動画・教材ソフトがあればファイルの形式で添付(20MB 以下、それ以上であれば媒体は USB で送付)する。

【部門と課題】

以下の 3 つの部門を設けます。

- 1) 人格形成教育部門(子ども達の人格形成・発達に関する教育)(主に幼稚園・小学校(生活科等))
- 2) 農業技術・知識理解教育部門(主に小学校・中学校・高校)
- 3) 農業人材育成部門(主に中学校・高校)

部門ごとの教材テーマは自由。最初に必ず部門名と教材名(テーマ)を書いて下さい。

(教科は問いません)

【応募期間】

2020年2月3日(月)～3月16日(月)

【審査】

審査委員長：太田 弘一（学会副会長・愛知教育大学）

審査委員：竹村 久生（天竜中学校） 浅野 陽樹（鹿児島大学） 大西 政夫（文科省初中局） 千葉 雄司（慶應義塾幼稚舎） 原田 信一（京都教育大学）

【審査基準】

審査の基準の概要は以下のようです。

[1]部門共通内容

農業教育に関する教材としてすぐれていること

教材が担う農業教育上の教育内容(目標)が重要であり、明確であること

実践にもとづく成果が確認されていること

多くの教育現場で活用できること

[2]部門ごとの内容

1)人格教育部門:子供達の人格形成・発達を支援する内容としてすぐれていること

2)農業技術・知識理解教育部門:農業技術や農業の社会的意義に関する内容に関して、技術的な実践内容(実習)・知識理解を支援する内容としてすぐれていること

3)農業人材育成部門:将来農業に従事することを前提とした教育を支援する内容としてすぐれていること

【審査結果】 2020年 5月下旬に電子メールで通知

【表彰】

各部門ごとに最優秀賞1名および優秀賞1名を日本農業教育学会長が表彰し、受賞者には表彰状および記念品を贈呈します。なお、受賞作品は日本農業教育学会誌に掲載されます。

【応募先】【事務局連絡先】

〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 京都教育大学 産業技術科学科 原田信一 気付
日本農業教育学会教材開発コンクール事務局

TEL: 075-644-8311 e-mail sharada@kyokyo-u.ac.jp

なお、問い合わせは、できるだけ電子メールでお願いします。